

## 令和5年度第1回四日市子ども・子育て会議議事概要

令和5年8月18日

15時00分 開会

### 1 開会

### 2 委嘱状の交付

### 3 委員紹介

### 4 会長の選出

### 5 議事等

#### (1) 第2期子ども・子育て支援事業計画の進捗状況等について

○事務局 資料説明

○会長 質問、ご意見いかがか。

○委員 病児保育のことだが、この3年間にコロナにかかっているお子さんはどのように対応されたのか。今後、新たな波が来たとき、病児保育でコロナにかかった方のサポートをどうやってしていくのか。

○事務局 病児保育のコロナ禍の対応だが、病児保育は必ず診察を受けてから利用いただける。コロナの可能性があると診断されたお子さんについては、預かりは控えていた。

5類に移行してからは、インフルエンザと同じ取扱いになっているので、症状に応じて医師の判断で預かるか預からないかは施設で決めている。

○委員 学童保育所の利用実績の人数が70人増となっているが、下の表は見込みと利用児童数という差し引きなので、正しい数字がわかりづらいと感じる。まずこの表を、括弧も含めわかりやすく説明してほしい。

学童保育所支援事業のひとり親家庭あるいは生活保護家庭に若干の援助はあるが、夏休み中の昼の食事、おやつ代について親に大変負担がかかっているかと。今後視野に入れて

考えてほしい。

また、国の支援もそういうふうになってきたのではないかと聞くが、その辺の市として学童保育所に関わる飲食物に対する補助、またはひとり親や生活保護を受けている子に対する援助等についてどうか。

**○事務局** C欄の利用児童数については、実際に学童保育所へ通っている児童の数で、B欄の計画値は各施設の大きさ等で児童を預かっている数を表している。C欄がB欄より大きいところは想定の数より多いお子さんが現在通っている。

大矢知興譲小学校で説明する。当初の計画では132名の児童が利用できる施設に対して143名だが、昨年度施設の改修を行って提供の拡大を行い、計画値で132となっている。来年度は170の利用人数を受け入れる体制が整っていくので、表については、Bの計画値よりCが少ないところで、提供体制の確保ができていて、できていないと判断していただくようお願いしたい。

ひとり親家庭と就学援助家庭、生活保護家庭については、児童一人につき最大5,000円の補助で、市から学童保育所を通じて補助金を支払っている。

夏休みの昼食については、今年、夏休みのニュースで、東京では一部行政から一律に宅配の食事が始まったと情報としてはいただいている。昼食について特に新しい補助メニューができたかの話は現在まだ聞いていないので、これからまた他市の事例や、国の動向を見ながら検討を進めていきたいと考えている。

**○会長** 保育も表の見方は一緒か。3ページの表で、例えば市全体で3歳以上の幼稚園利用と認定された1号認定の子どもが、当初の計画値では令和4年の量の見込みが3,922。提供体制については6,300でよいか。利用児童数申し込みがそれを下回っているので、キャパよりも実績のほうがはるかに少ない見方で合っているか。表のつくりが違うということによいか。

就学前の保育については、待機児童が出ている。引き続き課題としていますが、これは実際に待機児童がその後の対応はどうなっているか。

保育所に申し込んだけれども保育所が使えなかった子が、低年齢児を中心にいるということで、その子たちの保育はどういうふうにかバーされるのか。

**○事務局** 現実には、育休とかで待てる方は待っていただく、園に対する希望で、空き状況と照らし合わせながら園を探す範囲を広げていただく、再度調整を行う等の対応をしている。

年度の途中で待機が出ているとか、入園待ち児童というのもございますが、園を広く希望するのではなく、絞って待つからという形で申し込んでいただいている方もいる。

**○会長** 入園待ちというのは、入ろうと思ったら入ることができるが、自分の希望と合わないで待っている方々がこれだけいるということか。待機は、選んでも入るところが実質的にない。

**○事務局** 例えば、待機児童ゼロと報道で耳にされることもあると思うが、4月1日時点は待機児童をゼロにすることはできている。これは10日1日現在で、年度途中で待機が出て、それが積み重なった結果がこの数字になっている。待機児童の解消ということは年度を通じて見た場合まだできていない。

**○会長** それについても含めて、意見、質問いかがか。

**○委員** 5ページ、6ページですけれども、延長保育、一時預かりについて、私立園が多い状況であることで、公立の園に行っているお子さんも、延長保育を希望したい、一時預かりをしてほしいと思っていると思うが、全ての園でやることができないのは、人員の問題や役割分担なのか。

**○事務局** 役割分担的などところで、延長であるとか休日保育とかいうことに関して、私立に協力願って進めている、協力いただいている状況。

人員面も、保育教育職に関する人員不足。延長なり休日なり一時保育なりというところには、その分の人員が必要で、拡大していくのが苦しいというのが実情。

**○委員** 人員不足は学童保育、放課後等デイもあるが、例えば公立で予算を組んで人員不足の部分を増やすとか。万年人員不足というのであれば、公立でも預けられるように、その予算を確保するのは難しい話なのか。

**○事務局** 1つは処遇改善というところで、給与や賃金に関して、国も地方も加算、処遇改善のための予算措置が、ここ近年ある程度されている。

ただ、人自体が少なくなっている。そういった資格を取るための養成校の人たちに伺うと、進学者自体が減ってきて、定員を割ることを懸念しながら学生の獲得に努めている。職に対する魅力、目指す人が希望を持ってその道を進めるようにとしないといけないのか、私立も含めて話をし、人材確保のための取組をしつつある。

例えば、この夏、私立保育連盟は高校生のインターンシップという事業をされ、高校生でその業務を目指したいという方に体験をしてもらう。お子さんと触れ合って、決意を持ってもらうところから耕していかないといけない。「処遇面」「若者が目指すような取組」

という、両面が必要なのかなというのが現在の捉え方。

**○会長** 表によって統一されていないので、延長保育にしても一時預かりにしても、全体としては足りている。つまり、利用できない人がいるわけではない。

延長保育についても、公立2園だけれども、延長保育を必要とする人は、利用調整の段階から私立園に回っていただくようにしている。

**○事務局** 潜在的なニーズがあって、その当時にはもっと人員が要るとか、利用される園が限定的であるとか、例えば市内全域とかもっと広くしていく必要という提案の中で、そのネックがお金なのか人員なのか、両方含めたところなのか。お金という面で解決する話であれば、もっと予算確保に努めたらいいのではないかと、将来的なことを含めた質問かと。

私としては、保育所の人材確保に関しては、現状、厳しい状態ではありながらも、当事者の方とも話をしながらやっているとか、新しい取組も手がけていただいている例ということで、現状を報告させていただいた。ただ、計画ということでいうと、差し引きすると足りている。事前に必要な方がそっちに回っているという意味で一致しているという面もあるという指摘であるなら、我慢や苦勞をかけている点については、否定できない。

**○委員** ファミリー・サポート・センターのところで、援助会員の不足が依頼会員に比べて随分ある。依頼会員をフォローしていくための援助会員を増やすために、PR活動に努めたが微増。ファミリー・サポートはとてもいい事業だと思っているが、今も保育園の職員の方々が足りない、学童保育も支援員不足と人がいないので子どもを預かることができないという課題もたくさん聞く。こういう地域のボランティア活動みたいな800円のお金になるとはいつても、援助する方々が子どものために活動するというのが大事。今後の見通しや広がり方はどんなふうに考えているのか。

**○事務局** 人数だけ見ると表のように、3年から4年に比べると微増で、依頼会員と援助会員の差も依然ある。

13ページにあえて地図の形で載せているが、地域によって依頼される方、援助していただく方、それぞれに大小がある。「特に近鉄沿線」、市の東側、沿岸部の特に北のほうで、依頼される方に対して援助会員の方の不足があると考えている。こうした地域に対し、地区市民センターを訪問し、その地区の地区社協や民生委員と話しているが、それが数の増につながっているかという点と難しい。

ファミリー・サポート・センターで日頃からいろいろなイベントを実施し、その際に会員になってもらえないか声掛けを行っている。実際、コロナ前ではイベントに来ていた方

が援助会員に登録する事例も多くあった。永遠の課題とならないように、少しでも、今年度も何か一つでも新しいことができれば。

**○会長** 「預かり等」ということになっているが、市町村によっては、ファミサポは預かりよりも送迎のほうが圧倒的に多く、「等」と書いてあるので、援助会員お家で預かってもらう預かり型よりも、送迎のほうが圧倒的に多いのではないか。「等」の中に送迎の割合はどれぐらいになっているのか。

**○事務局** 預かりより送迎というのが件数としても多くなっている。

本年7月末現在の累計では、保育園・幼稚園のお迎えが一番多く、習い事への送迎も、保育園・幼稚園のお迎えと帰宅後の援助もあるが、学童保育への送り、障害児のお子さんの小学校の送迎が件数としては多く出ている。

送迎が全体の6割ぐらいを占めている。

そのほかについては、預かりということになっている。

**○会長** 病児保育について、これは全部クリニック併設になっているが、病児対応型のもとの病後児対応型のものとは体調不良児対応型、これは保育所になる。

四日市は、体調不良児はやっていないが、これは全部病児。病後児もあるか。

**○事務局** 4か所とも、病児・病後児対応型。

## (2) 第3期子ども・子育て支援事業計画策定のための調査について

**○事務局** 資料説明

**○会長** 質問、意見いかがか。

**○委員** 実態調査の中で、コロナ禍でどう変わった部分があるかという設問を見ると、何とかの時間は減ったかどうかみたいな項目がずらっと並んでいる。家族との会話とか友達との会話が増えた・減った・変わらない。

これを見ていて、食に関しての設問がないように思うが。コロナに感染した子に対して、家族に対して食品の支援が市から送られてきたと聞いて。実際送られたものが、熱を出しているときに食べられるようなものではなかったということを知った。子どもが家にいることによって、食事を家で提供しなきゃいけない。そうすると、加工品とかインスタント食品になったという状況が実際かなり増えたかと思う。子どもの認識も、こういうアンケートの中で問われなければ、そういうものと受け取られていく。保護者も、緊急事態だけ

ら仕方がないと。

ただ、食の変化というのは、この3年間で心身の健康に随分影響していると思う。実際、大人はコロナ太りということもあったので、子どもにもないわけでないと思うし、その辺の量とか質とか設問があってもいいかと思う。

**○事務局** 食についてということは、コロナの関係のところにはない。

今回出させていただいた選択肢の中で、例えばコロナ太りということも、運動する時間というのは追加したが、食事についても検討する。

### (3) 令和6年度に向けた利用定員の設定について

**○事務局** 資料説明

**○会長** 質問、意見等いかがか。

**○委員** こども園というのは、例えば日の本第二こども園になると、3歳児が教育認定で1、4歳児が教育認定で2、5歳児が教育認定で2増えるということは、幼稚園に行っているようなお子様たちが保育園でも受け入れられるということです。この数字が、幼稚園協会からすると寝耳に水だったみたいな感じのところもあったからこそ、この3日間、話をまとめるのがとっても大変だった。

公立園の幼稚園が閉園。その中に、公立園の老朽化みたいなことも理由にあったかと思うが、老朽化というのは前からわかっていたことではないのか。今ここで整理するために、老朽化だからという計算では遅い。そういうことはわかっていて、きっとこども園になる制度ももっと前からできていて、私が他県とかに研修とかに行かせていただくと、ほかの自治体はどんどんこども園になっているのに、何で四日市はこども園にならないのか、とずっと思っていたが、ここで一気にこういう話になったら、幼稚園協会や保育連盟が戸惑う。

これからこども大綱というのも策定されていくと、またメニューが変わったり、制度が変わったりしていくときに、市の方はまとめたり、制度を四日市に照らし合わせて変えていくというすごく大変な作業かなとは思いますが、なるべく混乱がないようにスムーズに進めて、保育の制度、子どもたちの生活を守っていききたいと思う。

子育てするなら四日市だったら、腰は重たいより軽いほうがいい、先々へ行ってもらったほうが、子育てするなら四日市かなと思った。

このようにまとまったので来年度から、今決まった園は頑張っていられると思う。また、令和7年度以降に移行を考えている保育園、幼稚園もあると思うので、そこは柔軟に対応していただきたい。

**○事務局** こども園に対して、市としてなかなか取組が進んでいなかった。限定的な姿勢で来ていたという状態であったが、昨年度、公立園をいかに再編するかという話の整理を改めて抜本的に行う中で、今までこども園に対して取り組んでいなかったところを、こども園というものをある意味主軸に据えて考え方を改めていかなければいけないという認識に至った。公立園で考え方が改まったといっても、私立はそれぞれに対して、その分のハレーションというか影響があるというところで、前々から望んでいたことであったが、急にそうなるとそれはそれで戸惑うという指摘かと思う。いろんな取組を考えるという行為を強いた。

そこを踏まえ、昨年度、幼児教育・保育部会という形で専門的にその部分に関して話す場、準備会でお互いに話し合えるような場を設けた。

この部会という流れは引き続きやらないといけないし、6年度の話だけをしていたが、7年度、8年度と、中期的に移行を考えている園とか、施設のありようについてもそれぞれの法人は非常に頭を悩ませているところだと思う。直面している課題について共有しながら、このような取組を7年度、8年度も継続してやっていきたい。

こども大綱の話も出たが、これはどんなものか、正直言ってかなり気になっている。その影響はこの会議も受けると思うので、種々相談させていただくことになる。

**○委員** 私立幼稚園の14園が一気に集まることはなかなかなく、保育連盟のほうが、集まる機会が多い。これが持ち上がったときに、14園の園をまとめていくことはなかなか無理があり、実際私立保育園には大変申し訳なかった。

たまたま1園が手を挙げてこども園になっただけのことなので、スムーズかと思うが、今後、幼稚園も先を見据えて進めていく必要がある。ただ、0・1・2というところで受け入れ枠がなくても、私立幼稚園も2歳児からの預かりをしているので、そこから以降は、園児がだんだん減っていくときに、新しい園舎をつくれるという考え方ではなく、何とか今いる園で補っていけるようになるにはどうしたらいいかということが一番考えて、子どもたちに税金を投入していただけると大変助かる。今後もこのことに関してはしっかりと話し合っていくべきだと思うし、8月24日にも、私立幼稚園の園長が研修会後に集まることになったので、報告をして今後ともしっかり考えて、子どもたちのためにいろいろ

ろと検討を重ねていきたい。

私立幼稚園側としては、利用定員と次に移る定員数が増えるのはどうかと質問をさせてもらい、市で話をしますということで終わっていたと思うが、教えていただいてもいいか。

例えば、愛華さんは、 $5 \cdot 5 \cdot 5$ 、15。もともと100定員が115。ここは変わっていない。次、フジ保育園さんの $3 \cdot 3 \cdot 3 \cdot 2$ は変わっているが、その下、足して、ここ110は合っている。足し算がどうなのか。移らない園が出たから、ここはこのままにしておくといつてこうなったのか。

**○事務局** 部会のと時から移らない園も出たが、部会や準備会の中で、Bのパターンで調整しなければいけない部分につきましては、1減らさなきゃいけないとか、これは幾つ減らさないといけないということについては、総数が部会での合意した数字に合うようにさせていただいた。これがその修正後、調整後の数字となっている。

## 6 その他

**○会長** こども家庭庁とかいろんな動きがある中で、少子化という全体の状況の中でどういうふうにこれから子ども・子育てを支えていくのかというのは大きな課題になっているので、四日市も既に出生数が減少している中で課題もたくさん見えてきておりますので、皆さん方の関わっている立場あるいは専門性の部分から意見等、引き続きこの会議の中でご発言いただきたい。

## 7 閉会